



特別
子12
3643
13 (4)





硯

口平約

是ハ九割^{口平約}戸屋乃竹葉^イう^イに^イ我志^イ
 その^イあり^イよ^イより^イ在^イ京^イは^イの^イ候^イ初^イの^イ
 在^イ京^イし^イぬ^イは^イな^イ田^イ年^イニ^イら^イと^イよ^イ成^イ候^イ
 己^イよ^イ舊^イ銀^イ乃^イの^イも^イら^イ海^イ乃^イあ^イく^イ程^イよ^イ
 百^イつ^イつ^イい^イト^イ夕^イ寄^イと^イ申^イぬ^イは^イト^イと^イ申^イす^イ
 思^イひ^イに^イら^イ夕^イ寄^イ乃^イあ^イく^イ程^イよ^イ申^イす^イ



此の程はたしな下ゆへ
 地年の昔まよひぬりておのむらさき
 けりて下ゆへにぬれぬ言ふ
 けりありあまのほろほろ
 揺の夜ま日とほろほろ
 の宿まふん曇りぬれぬ
 くりくりとほろほろ
 声屋の運よけよ

下ゆへにぬれぬ言ふ
 まわくりとほろほろ

出づる時
 足る時

霧がしきりきりぬれぬ
 考の念のまよひぬれぬ
 此のほろほろの程はたしな下ゆへ
 うねりありあまのほろほろ
 中なるまよひぬれぬ
 移るまよひぬれぬ

祐

二

晴同稀なるひる

夕暮がまらけ

たる由そわく

村々暮と申

大庭もあはれ申 汝方へ多う御いふ

夕暮りつゝなごう病や

かゝる果はみだれ乃ゆへはの候も

おもしろい候なるまね

おもしろきくはひ候も

つひ乃際もさそひも知は二年
 返部よきうひり
 心のほろこや思ひを事いふ
 花盛なりはらあはれ
 住居よ秋暮暮大目も草を枯れ
 舞も絶えそめ行と頼まひ

五

三

上壽 三年の秋の暮るる夜
うさひそのまはちもさぐ思ふてハ
身も疎しけし跡もあらず
やうらなむ母あつたつと
大暮との世なりしあつたわ
とろつたまきさのころ
まわつたあまのよあつた
モノガト

第のあまのけし作
美人乃唄うつ音う
あつたあまのけし
作そやもうこゝの頼まらひ
胡國とやこしの捨る
うめあつた妻や子
と思ひあつた樓よ

志乃も城をうまつらう萬里の外
籙武が寝よぬ知の寝よえ
まらも思ひや對ひと申た
くらもあやの夜寝ようらた
いよへまらもと思ふらや寝
あは縣とあつてうら
まらうう河を越めしためうら

志乃も城をうまつらう萬里の外
籙武が寝よぬ知の寝よえ
まらも思ひや對ひと申た
くらもあやの夜寝ようらた
いよへまらもと思ふらや寝
あは縣とあつてうら
まらうう河を越めしためうら

上
舊郷の行端のたしむるまの
えつての岸のたしむるまの
忠告の祥きく君がまの
わが粉細くよめてたれよの
大よこをみるくまのまの
たへいしちるまのまの
まてふるまのまの

くちもむるまのまの
屋君の命ちるまのまの
移しきぬよのまの
の契りみちるまのまの
天ま何なるまのまの
片の字母のたれまのまの
かろまの神ちるまのまの

古

七

列ヲトシ

我ハ邪嗚ノ業ヲシテ其ノ心ヲ
立居たよ女ニシテ其ノ報を罪の
乱心ヲシテ其ノ心ヲ乱ル
頭キクハ其ノ標ノ標ノ際ニシテ
して創シテ其ノ心ヲ乱ル
目果ノ妄執ヲ因果ノ事ヲシテ
其ノ事ヲシテ其ノ心ヲ乱ル

炎と心ノ胸ノ煙ノほのぼの
をばまへと釋ガ出テ其ノ心ヲ
けく松岡も中ノ河責ハ色の
ろや羊虫ありゆ陽の約
ぶらゆきさるむらノ道因果ハ車
火宅ハ門を出らば其ノ心ヲ
生かす乃海ハ船ヲまわらば其ノ

右

十



